

## カナダ ブリティッシュコロンビア州のリンゴは増収の可能性

[FreshPlaza 2024年5月10日](#)

### 早期の報告では、ブリティッシュコロンビア州は今シーズン、リンゴが増収の可能性

ブリティッシュコロンビア州では、昨冬の寒波が州のサクランボと核果類の生産に影響を与えているが、リンゴは今秋の2024年の収穫に向けて無事なようだ。スター青果物会社の梱包出荷部門であるコンソリデイテッド・フルーツ・パッカー(CFP)社の営業担当シニアディレクターであるゴード・モリソン氏は、「南部では開花が少し早かった。ブリティッシュコロンビア州の一部の地域では、春の霜害を受けた地域もあった。しかし、この被害は特定の地域に限定されており、我々は今後のリンゴの作柄について非常に楽観的である」と言い、特定の地域では20~30%の霜害が見られたと指摘しつつ、「しかし、オカナガンバレー地域全体ではそうではない」と述べた。(以下「」は同氏の発言)

リンゴの花芽が春に成長すると低温への耐性を失うが、オカナガン地域南部では開花の最中に夜間の降霜に遭遇した。一方、北部には1つか2つの局地的に寒くなる地区があるが、花芽はそれほど成長していなかった。「オカナガン地域のリンゴの大部分が栽培されている北部では、大きな被害はまったく見られない。」全体として、まだシーズンの序盤であるが、一部のハニークリップの園地では着果が少なく見えるため、CFP社の取扱量は昨シーズンに比べてわずかに減少する可能性がある。

振り返ってみると、昨年オカナガン地域では早い時期に暖かい気候が続き、一斉開花となってリンゴの開花時期が短くなった。「今年は気温がずっと好ましいので、花の状態がかなり良い。開花期間が長くなると、受粉も良くなる。昨年は、すべてが一気に進み、受粉の期間が短かった。」

### 細胞分裂の状況

開花と着果に続いて今起こっていることは細胞分裂への移行で、この段階で天候が良いと果実の細胞も増える。「これは果実の大きさと相関関係にあるので、今起きていることからすると、今年は果実の大きさが良くなると考えている。」

一方、CFP社は、ブリティッシュコロンビア州におけるリンゴの全体的な品質と生産量を改善するというマクロな目標を維持しており、これには高品質な果実を栽培するための新しい農法と技術の採用が含まれる。また、果樹栽培者の取り組みをサポートする現場指導の専門家もおり、モリソン氏は、生産者の収益の改善が重要であると述べている。同氏は、「果樹園や技術、農法に投資するには、前向きな姿勢をとる必要がある」と言い、それらの投資は、より少ない労働力でより大きな収量を生み出す新品種などに対して行われると指摘する。一方、カナダの小売業者にも、業界を支援し、地元のリンゴ品種が入手可能であればそれを消費者に提供することに注力する姿勢が感じられる。

この投資の対象には、ブリティッシュコロンビア州が近年特に取り組んでいるヒートドーム現象と急激な気温変化など、生産者が進行中の気候変動に対処するのに役立つ技術も含まれる。「我々は、気候変動によって引き起こされる将来の環境ストレスに適応し、生産者が栽培方法を変更するのを支援する必要がある。」モリソン氏は、これには気候変動に強い台木を植えることが含まれるかも知れないと指摘している。

執筆者: アストリッド・ヴァン・デン・ブローク

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)